

編集手帳



2024 年 12 月 2 日に 2024 年の「新語・流行語大賞」が発表された。「裏金問題」は 2024 年 10 月の衆議院議員選挙でも焦点となったが、個人的には「調査研究広報滞在費(旧「文書通信交通滞在費」)」の問題が大きいのと思う。すべての国会議員に毎月 100 万円、年 1,200 万円が支給される。税金からまかなわれているにもかかわらず、使途の公開義務がなく、目的外使用への罰則もない。一方、われわれの公的研究費は、綿密に作成された研究計画の審査によって競争的に支給されたうえで 1 円単位で厳密に管理され、「不適切」な運用に対しては厳しい罰則が設定されている。同じ国の同じ税金に依存しているにもかかわらず、なぜここまで大きく異なるのか？

「不適切」といえば大賞は「ふてほど」であった。ドラマタイトルの「不適切にもほどがある！」をこのように短縮することが適切かどうかはさておき、昭和と令和のコンプライアンスのちがいを際立たせながらも、どちらか一方に偏ることのない作品であった。毎回のエンディングに使用していた「1986 年当時の表現をあえて使用して放送します」のテロップを、最終回では「2024 年当時の表現をあえて使用して放送しました」に書き換えたように、両時代の「適切」「不適切」について視聴者にもう一度考え直させる構成となっていた。

臨床研究の領域でも第二次世界大戦前後には「きわめて不適切」な研究が数多く行われ、私が医師になった平成の時代にも「まだまだ不適切」な臨床研究は続いていた(『ゼロから始めて一冊でわかる！ みんなの EBM と臨床研究』(南江堂)参照)。それが平成後期になって急激に倫理指針の改訂、臨床研究法の制定が進み、厳しい管理が行われるようになった。医師だけによる研究実施が困難となり、外部機関の力を借りるようになる。臨床研究はビジネスチャンスととらえられて研究遂行費は高騰した。医師は労力の面でも研究費の面でも「前向き介入研究」の実施に対して著しく「後ろ向き」になってしまった。

ルールを定めるとなると、過剰なまでに細かな規定を設け、施行後はそれにとことん厳密に従わせるのが日本の特性である。「適切な臨床研究」のためのほどよい「適切」な落としどころが見つかることを願っている。

神田善伸

臨床雑誌 内科 第 135 巻 3 号(第 813 冊) 2025 年 3 月 1 日発行

監修：杉本恒明 黒川 清 矢崎義雄 木村 哲 小俣政男 宮坂信之 永井良三
編集委員会：神田善伸(委員長) 立石知也 牧 尚孝 岡本 耕 辻本哲郎

編集兼発行者：東京都文京区本郷三丁目 42 番 6 号 小立健太
印刷所：東京都江東区亀戸七丁目 2 番 12 号 三報社印刷株式会社
装丁：渡邊真介

発行所
株式会社 南江堂

〒113-8410 東京都文京区本郷三丁目 42 番 6 号
出版(「内科」編集室直通) Tel: 03-3811-9984 Fax: 03-3811-8660
営業(販売 1 課/卸) Tel: 03-3811-7239 Fax: 03-3811-7230
<https://www.nankodo.co.jp/>

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

JCOPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(Tel: 03-5244-5088, Fax: 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

図書館等のご利用にかかわる指針は弊社ホームページ(弊社著作物の利用について <https://www.nankodo.co.jp/pages/crp.aspx>)からご確認ください。

広告申込所 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-24-6 本郷大原ビル 6 階 株式会社文京メディカル(Tel: 03-3817-8036)